

令和4年度 事業報告

一般社団法人愛媛県卓球協会

1. 総括

一般社団法人へ移行して2年が経過し、愛媛県を代表するスポーツ団体、信頼される組織として社会的役割・責任を果たすとともに、卓球県愛媛の実現に向けて着実に運営した。

2. 重点目標・大会等事業の実施状況

(1) ガバナンスコード（組織運営上の原則・規範）の取組み

女性役員が新たに2名就任、女性役員の比率を高めた。

大会等の実施

(2) 52事業のうち一部中止となったものの、ほとんどの事業を着実に実施した。宇和島での「全国高校選手権大会」は愛媛県高体連が奮闘し大成功の大会となった。そのほか、四国選手権大会、国体四国ブロック大会など滞りなく実施した。

(3) 全国大会での入賞、選手の育成強化

とちぎ国体で成年女子がえひめ国体以来の3位入賞を果たしたほか、全日本選手権大会(カデットの部)14歳以下において中城選手が2位入賞、同ダブルスで中城・灘野組が3位入賞、全日本選手権大会(マスターズの部)において女子サーティで片上選手が2位入賞、男子サーティで井上一輝選手が3位入賞、女子ローセブンティで武田選手が5位入賞、全日本クラブ選手権大会女子一般でフォーネットが4位入賞した。また、愛媛銀行が日本リーグ1部に復帰、全国チャンピオン大会でフジが優勝するなど、様々な大会、幅広い年代で本県選手は好成績を上げた。

選手の強化育成を着実に実施、小・中学生の強化に力を入れて取り組むとともに、それぞれの種別で効果的に実施した。

(4) 全国大会開催への運営能力の向上

インターハイを機に高校生が公認審判員資格を多く取得するなど、全国大会実施に向けて審判員の能力向上に取り組んだ。

(5) 登録会員の確保

登録者数が大会実施に伴い増加した。支部をはじめ各クラブ・チームの努力に敬意を表したい。更なる登録会員の確保、卓球の普及が期待できる。